

# JHFREPORT



ハングライディング女子世界選手権より。テイクオフする礧本容子選手。 撮影:大沼浩チームリーダー

## 「空の日」に航空スポーツ賞・日本記録証を

空の日(9月20日)の前日、東京都新橋の航空会館において、一般財団法人日本航空協会の空の日のイベント、航空関係者表彰式が行われました。これは『航空に関する文化、科学技術、事業ならびにスポーツなどの発展に著しく寄与した者、またはグループ』が表彰されるものです。

今年度は、航空スポーツ賞\*を第13回ハンググライディング(クラス1)女子世界選手権優勝の礧本容子さんと団

体優勝の日本チーム(チームリーダー大沼浩さん、礧本容子さん、野尻知里さん、桜井さやかさん、谷古宇瑞子さん、内田秀子さん、鈴木樹子さん)が受賞。また、パラグライディングの平木啓子さん(一般及び女性 直線距離332km)に日本記録証が授与されました。皆さん、おめでとうございます!

同日夜にはハング世界選手権女子チームの報告会・祝勝会を行いました。

\*航空スポーツ賞……航空スポーツの

FAI世界記録を樹立、または、同世界選手権者となった個人、グループに贈られる賞です。



日本チームの皆さんと平木啓子さん(右端)。



FOR ALL SPORTS OF JAPAN  
JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

日本でも海外でも「安全優先」を忘れずに

山々は紅葉の美しいシーズン。寒さ対策を万全にして楽しくフライトを。また、年末年始の休みは海外フライトを計画している皆さん、どこで飛ぶときも自他ともに安全優先、しっかり準備してください。

# FAIクラス1女子／クラス2／クラス5ハンググライディング世界選手権 女子個人・団体ともに世界一！

6月22日-7月5日 フランス アヌシー 報告:チームリーダー 大沼 浩

6月下旬～7月上旬にフランス東部のアヌシーで行われた"FAI World Hang Gliding Women's Class1 & Class2 Class5 Championship"には、13ヶ国から総勢102人の選手が出場した。各クラスの参加者は、クラス1女子が計21人(うち日本人6名)、クラス2が計10人、クラス5が計41人(日本人6名)、スポーツクラスが計30人(日本人1名)であった。

競技参加者減少に対応し、今大会はクラス1、クラス2、クラス5に加え、大

会参加者を増やす目的から新たに設けられたスポーツクラスの計4クラスの競技会が同時に開催された。新しいクラスの設置は本来、参加者を増やすために、競技会初心者～中級者に向けて設けられた枠であると思われたが、実際の参加者はヨーロッパの中堅クラスのベテランパイロットも多かった。グライダーもキングポスト付きの機体でありながら、かなり性能が引き出せるようにチューニングされている様子だった。そのため、スポーツクラスのタスクは毎回クラス

1女子よりも小さめに設定されていたが、先にゲートスタートした女子選手陣を、後からスタートしたスポーツクラスのパイロット達が抜いてゴールしていた。

大会本戦は、6月24日～7月4日の11日間。うち競技が成立したのは6日間であった。現地サポーターの話によると、7月くらいから条件が渋くなるらしく、11日中6日というフライトの確率からも、少し条件の渋い時期に大会期間がかかってしまったように思えた。



世界選手権の舞台となったアヌシー。眼下のアヌシー湖を取り巻く山岳地帯を使ってのタスクが多かった。



競技本番の前に日本チーム全員でミーティングを。



世界選手権5回獲得の女王、ドイツのコリーナ。



クラス5、リジッド翼の選手たちが動き出す。



スポーツクラスに参戦、岡田選手がテイクオフ。



野尻選手、ゴールで会心の笑み。5位入賞の健闘。



女子個人入賞者たち。初めての「君が代」に感動。



ついに表彰台の中央に立った日本女子チーム。



クラス5個人入賞者たち、古坂選手(右端)が9位に。

アヌシーのエリアでは、アヌシー湖を取巻く山岳地帯を使ったタスクが多かった。気候に関しては、空気は乾燥していて、とても生活しやすい環境だった。晴れていてもテイクオフ（海拔1,200m）では、風が強かったり少し雲で陰ったりすると肌寒いほどであった。サーマルトップは平均して2,000mくらいで、条件が良い時で2,300mくらいであった。

タスクは女子が最短で46km、最長で97km。リジット（クラス5）は最短で64km、最長175km。スポーツクラスは最短46km、最長91kmであった。

タスク4の日は、明け方の降雨にも関わらず条件が好転して、3クラスの日本選手12人が全員ゴールを達成した。

日本よりもサーマルポイントが明確なため、タスクの大小に関わらず、風向き次第で飛び方は大体決まってしまうように思われた。特に山岳地帯奥を飛ぶ時は、ランディング場所もかなり険しく限られてくるので、ポイントに着くタイミングと、移動する前にしっかりと高度を獲得して離れることが順位を上げるうえで重要であったろう。そういった観点からすると、今回のスポーツクラスの存在、特にエリアに詳しいパイロットは、とても良い指標であった。女子チームも毎回地元パイロットのレクチャーを受けたが、良い情報を得ていたと思う。

タスク発表後にレクチャーしてくれたスポーツクラスのピエール・ジン（Piero Zin）選手には感謝したい。

大会結果は、女子日本代表の磯本容子選手がタスク1を3位、タスク2、3をトップゴール、その後の3タスクも上位でゴールして、女子世界チャンピオンの座を獲得した。同チームの野尻知里選手も総合5位という上位に入り、国別のチーム選でも女子日本チームが1位になるという、日本ハンググライダー史上初の快挙を成し遂げた。サポーターとして観戦していても、特に女子は技術的に他国に優っていると感じた。チャンピオンの磯本選手も、女子同士でのフライトより、日本のポイント大会で飛んでいる方がもっとシビアな競技になると語っていた。ただ、やはり世界選手権となると、基本的な技術に加え、精神的な要素も大きく影響してくる。今後はメンタル面でのトレーニングも必要となるだろう。

今回の大会では、4つのクラスの競

技会が同時に開催されたが、このことはとても良かったと個人的に感じた。フライヤー（種目問わず）減少は日本でも共通の問題であるが、一緒に飛ぶことで、大会運営もしやすくなり、フライトの可能性も広がると思う。日本ではリジットの大会があまり無いが、クラス1のポイント大会と一緒にすれば、リジットフライヤーのモチベーションも上がり、競技のレベルも上がるのではないと思われる。

日本選手が出場しなかったクラス2は、エアトイーグでのテイクオフをオフィシャルランディングで行っていたので、別の大会のようだったが、時々見られる彼らのゴールランディングは素晴らしいものだった。優勝は相変わらずオーストリアのマンフレット・ルーマー。

本大会では、大変残念なことに、最終日前日に我々日本人リジットチーム小林正和選手が亡くなる事故と、女子鈴木樹子選手が競技初日に肋骨を骨折する事故が起きてしまった。初日には他にも外国人選手で骨折した人や、また別の日にリジット同士の衝突、リジットとバラが衝突するアクシデントも発生した。レスキューヘリも出動する回数が多かった。サーマルポイントが決まっているので、渋い条件下だとグライダーが密集してしまうために、こういったアクシデントも起こりやすい状況だったのかもしれない。GPSトラッカーを全パイロットが持って飛んでいたことや、事故を目撃した周辺フライヤーの適切な行動もあり、事故後の対応はとてもスムーズで良かったと思う。実際にプレ大会で選手がアウトサイドランディングした場所に出向き、事前にランディング場所の確認を行っていたことはとても良い準備であった。

小林選手が亡くなった翌日、7月4日は、日本チーム全選手がキャンセルを決め、また他の国の選手には世界選手権を続行してほしいことを伝えたが、最終日の競技は天候によりキャンセルとなった。

最後に、現地でお世話になった方々、日本で応援して下さった皆様にお礼を申し上げます。

[クラス1女子]

- 1位 磯本 容子
- 2位 Dieuzeide Banet フランス
- 3位 Schwiegershausen ドイツ

- 5位 野尻 知里
- 11位 櫻井 さやか
- 13位 谷古宇 瑞子
- 18位 内田 秀子
- 20位 鈴木 樹子
- 団体1位 日本

[クラス5]

- 1位 Grabowski ドイツ
- 2位 Kirchner ドイツ
- 3位 Friedl オーストリア
- 9位 古坂 学俊
- 13位 山本 剛
- 18位 塩野 正光
- 21位 小林 正和
- 22位 富原 淳
- 28位 太田 昇吾
- 団体1位 オーストリア

[スポーツクラス]

- 1位 Alonzi フランス
- 2位 Zin フランス
- 3位 Ujhelyi ハンガリー
- 13位 岡田 伸弘
- 団体1位 フランス

チームサポーター：水越康文、松田晃明、シルビー（現地フライヤー）

## 日本女子チーム選手から

### □野尻 知里

日本女子は世界で充分戦える!と認識できた大会でした。もっと精度を高めて、まだ見ぬ空を存分に飛ばしたいと思います。

### □桜井 さやか

アヌシーのフライト最高!表彰台での君が代にも感動!飛ぶのが好き! ハングが好き! 自分は幸せだな~ホントに。

### □谷古宇 瑞子

ゴールすることが課題だった以前と比べ、ゴールするスピードが課題となった世界選手権。磯本選手を目指します!

### □内田 秀子

初めての海外と世界選手権!景色が全く違う!が飛びは日本と全く変わらず。まずは、ガーグルの練習から!次は目指せ入賞!

### □鈴木 樹子

練習・体調管理と準備万端で本戦に臨みましたが、負傷し結果デイリー9位に終わりました。この事実も紛れもなく「世界選」です。次の機会に生かせるよう精進します。

# ハングが私の「どまんなか」にある。

ハンググライディング女子世界選手権者 **礒本 容子**

この7月、日本ハンググライディング史上初の世界チャンピオンが誕生した。多くの人びとの期待に応え世界の頂点に立ったのは、和歌山県紀の川フライトパークを本拠とする礒本容子さん。飛ぶことが好きで好きでたまらないという礒本さんに、フランスのアヌシーで行われた女子世界選手権のこと、ハンググライディングに対する思いなどを聞いた。

## もっと上手になりたい その一心で競技の世界へ

◎礒本さんは20歳のときパラグライダーを偶然目にし、「あれ、やってみたい」と、外村仁克さん(とのやん)のスクールへ。講習中にハングライダーでタンデム飛行をする機会があり「こっちが好きかも」。翌年ハングの講習を受け始めて以来、ハングひとすじ。出産育児のため7年間のブランクがあったが、封印されていた飛行への渴望が甦り、空に復帰したのが33歳。36歳で競技のおもしろさを知り、5年後に世界選手権を勝ち取った。サンデーフライヤーだった礒本さんが競技に目を向けたきっかけは何だったのだろう。

「私の中でハングは絶対の存在なんです。とにかく飛ぶのが好きで好きで。好

きだから、もっと上手になりたいと思う。たまたま大阪の枚方から和歌山のエリアの近くに転居することが叶って、毎日のようにエリアに通いました。それを見て、とのやんが『競技に出たら上手くなるで』と、勧めてくれたんです。実はかなり前に大会に出たことがあるんですけど、空気がピリピリしていて楽しくなかったんで、一度きりでやめてしまいました。競うことより飛ぶこと自体が好きなので、わざわざ楽しくないところで飛びたくなかったんです。ところが、復帰後、久しぶりに大会に出てみたら時代が変わっていて、ほかの選手が手取り足取り教えてくれるし、楽しいなあ、また行きたいなあ……と。

競技の魅力は、上手い人と飛べること。同じタスクを同じゴールをめざして飛ぶのに、トップパイロットと自分との差は歴然としている。その差を肌で感じるんです。悔しいし、言い訳もできない。でも、上手い人と自分のどこが違うのか真剣に考えて、一生懸命やると結果が出てくる。それがわかりやすく、おもしろいんです。

上手い人と一緒に飛べると、わくわくして気が上がりますね。リズムに乗って、テンポよく進んで行ける。自分がレベルアップしたことを実感できるし、実力以上のところに引き上げてもらえる感じ

なんです。だから、何としてでも食らいついでいこう!と。この高揚感はフリーフライトでは味わえないです。本当に、心が躍るんですよ!

ゴールしたときの達成感も特別なものがありますね。ゴールするまでがしんどければしんどいほど、喜びが大きい。簡単にゴールできちゃう日もあって、それもまた楽しいんですけどね。」

## 上手い人の飛びを見るのが とっても楽しくて

◎礒本さんといえば赤い翼。いつもセールカラーを赤にしてきたのは、実は上手いパイロットに覚えてもらおうためなのだという。

「自分をいかに目立たせるか考えて、グライダーを乗り換えてもセールはいつも赤にしてきました。一緒に飛んだ上手い人に覚えてもらいたかったんです。ランディングしてから『あそこで一緒だった赤いグライダー、覚えてますか? あのサーマルの先であっちのコースを選択したのはどうして?』というふうに話しかけて、上手い人のエッセンスを分けてもらうきっかけを作るんですよ。もっともっと上手くなりたくて、いろいろなことを貪欲に吸収したかったんです。



飛ぶことが何よりも好き。好きだから、もっともっと上手になりたいと思う。



ピエールからタスクについてレクチャーを受ける。



世界選手権でゴールする喜びを満喫。

相手が上手ければ上手いほど、話をするのも飛びを見るのも楽しいですね。実は世界選手権の最中にも、そんな衝動を抑えきれず、タスク5でスポーツクラスの選手について行って、グサッと途中に刺さってしまったんです。

アヌシーでは、クラス1女子、クラス2、クラス5、そして新設のスポーツクラスの世界選手権が同時開催されました。スポーツクラスといっても、すごいパイロットが何人も出場していて、機体性能ではこちらが上のはずなのに、一緒に飛ぶと負けるんですよ。彼らの『人間の性能』の良さに驚きました。上げ、見切り、どこをとっても見事。見ていてシビれる。同じ空域を飛ぶのがとっても楽しくて、『この人たちのこの飛びを肌で感じたい！こんなチャンスはない！』と思わず一緒に飛んでしまった。あとで、大事なときに抑制できないとはメンタルができていないなあと思いました。この日はゴール者がなく他の選手との点差があまりつかなくてトップを守れたんで、助かりましたけど。」

◎前回のドイツでの世界選手権は天候不順で1本も飛ばず、今回が実質的な世界選手権デビュー。しかし、世界一を目前にしてプレッシャーに押しつぶされるところか、他クラスの選手の飛びにときめいていたとは……ますますただ者ではない(?)。

「冷静に振り返ると、初めての世界選手権で、あがっていたんだらうと思います。自分ではそう思っていませんでしたけど、タスクを間違えたり、要らんことし

て距離を余計に飛んだり、やってること考えてることがバラバラで、統一されてない自分がいましたね。『たられば』になりますけど、日本での飛びができていたら、もっとイケると思いました。自分の本来の力を出すために、精神的な部分をどう育てていくか……これからの大きな課題です。

いつもの飛びができなくても、今回は『なんか、ついでな』と思っていたんです。かなりミスをしたのに、ほとんど成績に響かなかったし、デイリートップ2本も、気付いたらトップだったという感じで。あれだけハマして、遊んで、それでも1位を守れた。これはもう、ほっとしても手に入る勝ちなんじゃないかという、不思議な感覚がありました。

最後のタスク6は、追いつけてくる選手の動きを上から見ながらブカブカ行けばいいのに、やっぱり気持ちが焦っていたんですね。始まったらプランどおりにできなくて、最高のポジションにつけながらも先頭切って走ってしまい、あっさり降りてしまったんです。上空をドイツのコーナが高く飛んでいくのを見て『やってもうた〜』と思いました。それでもトップは奪われなかった。この世界選手権は『勝ち取る』のではなく『与えられる』ものだった、そんな気がします。」

◎しかし、力の無い者に勝利は与えられない。礧本さんに勝因を問うと、リスク管理とイメージトレーニングという答が返ってきた。

「岩山が切り立っていて、容易にランディングできる平坦な場所の少ないアヌシ

ーの地形を見て『ここはリスクが高いぞ』と思って、リスク管理のレベルを普段より上げました。どうリスクを回避するかを考えて、無理をしないことを第一に。外国のエリアでの経験がほとんどないので、とにかく慎重に飛ぼう、と。私、怖がりなんで、普段からあまり無茶な飛びはしないんですけど。

イメージトレーニングはガッツリやりました。チームリーダーの大沼さんが、地元パイロットで、トップクラスでありながらスポーツクラスの選手として出場していたピエールに、タスクについてのレクチャーを頼んでくれたんです。パイロットブリーフィングの後、ピエールが教えてくれることを頭に叩き込んで、最後までタスクボードの前に残って、繰り返し繰り返し執拗にイメージトレーニングをしました。ここはどのように飛ぶか、そのイメージができていなくて、その場で状況判断しながら、飛んでいて迷うことがなかったですね。

テイクオフする前のイメージトレーニングは大事だと、ずっと聞かされてきたけど、今回はその効果がはっきりわかりました。」

## 世界で男性と互角に戦いたい 今はそれだけ

◎礧本さんにとって、女子世界選手権はひとつの経過点にすぎない。目標は、男子パイロットがしのぎを削る総合の世界選手権に出ること。今回の勝利で、その目標がまた大きく見えてきたに違いない。



上手いパイロットとの出会いもあり大会は楽しい。



世界選手権者メダルを胸に。野尻選手とポーズ。



女子世界選手権での勝利は、さらに上を目指すために大きな収穫となった。

「男子とか女子とか性別に関係ない総合の世界選手権に出場することは、競技を始めたときからの一番の目標です。女子の世界選手権は、獲らねばならないタイトルだと思います。もちろん世界のトップになるというのは特別な喜びがあったし、自分をもっと上に上げるためにプラスになりました。獲れてよかった、そう思います。

日本の競技のレベルはすごく高い。だからアムシーで勝てたんだと思うんです。その高レベルの競い合いのなかで男性とともに日本代表として世界選手権に出るのは、簡単なことじゃないとわかってますが、そういう場で戦ってみたい、今はそれだけ。気持ちがすべてそこにいってます。

目標に向かってちょっとでも前進したい。女子世界選手権で勝って、その意識がもっと強くなりました。前に進むために、海外でのフライト経験を積みみたいと切実に思います。資金をどうするか、環境をどう整えるか、そして精神面をどう鍛えるか、それが大きな課題です。

体重を落とさないことも課題ですね。アムシーでLitespeed RX 3.5に乗るために、たくさん食べて6月までに70kgに増やしたんです。女性としてはどうなんだと思いますけど、男性に混じって戦うために、体重を維持しつつ筋肉を縮めたいです。」

◎目標達成のために前進あるのみ。ハンググライディングは、磯本さんの血肉そのものようだ。

「私の『どまんなか』にあるのがハング。自分でも『これは病気だ、しかもかなりの重症だ』と思います。

ハングが生活の中心にある。ハングで何か気になることがあると夜も寝られないんです。

もちろん家族あつてのハングですけど、幸せなことに夫も娘も理解してくれるから、これだけ打ち込める。これからも上手い人から刺激をもらって、男性のなかで戦って、上をめざしたいと思います!」

## 磯本容子さんプロフィール

いそもとようこ

1972年大阪府生まれ。和歌山県在住。20歳のときパラグライダーのスクールに入り、翌年ハンググライダーに転向。24歳で結婚し26歳までサンデーフライヤーとしてフライト。27歳での出産に伴い飛行を休止したが、33歳で復帰。2007年、36歳の秋に競技の世界へ。めきめき頭角を現し、2009年の「Asio X'mas Cup 2009」で総合2位に。初めて表彰台に立ち、こみ上げてくる喜びに「もっと上手になりたい」と思う。以来、その思いを強く持ち続け、数々の大会で男性と互角に戦ってきた。

女子世界選手権獲得は経過点であり、さらに上をめざす。

主な競技実績:2010年/13年/14年日本選手権女子1位、11年紀の川スカイグランプリ総合3位、14年女子世界選手権1位。2010年~2013年女子世界選手権選抜ランキング1位。

## 第37回鳥人間コンテスト

報告:山本 貢

去る7月26日、27日に開催された、毎年恒例の鳥人間コンテストについてレポートしたい。

まず滑空機部門から。強いアゲンストの条件の中、各チームともなかなか距離が伸ばせず悪戦苦闘…。

そんな中、ついに今まで常勝だった滑空機最強チーム「みたかもばら」に強力なライバルが現れた。「アクティブギャルズファミリー」だ。このチーム、かつては人力機で参加していた実力のあるチームで、素晴らしい出来のその機体は、岐阜県は各務ヶ原航空博物館に展示されているほどだ。そして、そのフライトも悪条件のなか394mの好記録を叩き出す。

それを迎え撃つ「みたかもばら」は、大木氏の見事な操縦で407mとわずかにアクティブギャルズファミリーを超えて王者の意地を見せ優勝。しかし、両チームとも実力は対等と思えるので、今後の鳥人間の滑空機部門が面白い展開になりそうだ。

次にタイムトライアル部門。

年々各チームの技術が進化していく中、名古屋大学が1分43秒31のタイムを叩き出す。しかし、Team "F"が昨年

作った1分43秒03にわずか28/100秒及ばず、新記録を逃す。

このチームは技術的には翼端が全部動く翼端全動エルロンを備えており、昨年記録を作ったTeam "F"も同機構を持っていることから、この機構は、やはりタイムトライアルでは有利に働いてくれるようだ。

残念だったのは、優勝候補の「堺風車の会」が旋回時バンクをつけすぎで落ちてしまったこと…。人力機では見たこともないハイバンクで旋回したことがアタとなったようだ。

このクラスの今年の優勝は、新記録樹立にわずかに及ばなかったものの名古屋大学が勝ち取る。

最後はディスタンス部門。

このクラスだけは、いつも上記二つのクラスが終わった翌日に行われているが、その日はとにかく風が悪かった。おまけに正午ごろには寒冷前線が通るとの予報…。なるべく飛べるうちにと選手を飛ばせるが、風が強いため優勝候補の東北大学ウインドノーツですら1849mがやっと…。そうこうしているうちに予報していた寒冷前線がやってきてやむなく

競技中断…。大会運営委員の方や審査員の方が集まり会議…。重苦しい空気の中、飛ぶことを希望しているチームがいる限り前向きに進めていくことに決まるが、とにかく危険性もある…。もちろん風が弱まった時にゲートオープンとするが、それまでウェイトニングしている段階で強風により機体が壊される可能性が高い…。そのことを各チームにしっかりと伝えたいので、希望するチームのみフライトに臨むことになった。

しかし…。やはり多くのチームが涙を飲んで「辞退」の選択をする。結局、寒冷前線通過後はわずかに風がやんだすきを見て広島大学のみフライトを試みるが、やはり記録は作れず…。

その後ますます強風になるとの予報により、安全なフライトは無理と判断しディスタンス部門はその幕を閉じた。

今回は大記録が出なかったものの、滑空機部門に強豪チームが現れたことや、タイムトライアル部門の技術が進み、いよいよレースらしくなってきたことなど、これからの鳥人間大会に期待を持たせてくれるよい大会であったと思う。

## ■国体PG大会優勝は首藤選手

### 長崎県ハング・パラグライディング連盟

9月13日(土)、「長崎がんばらんば国体 デモンストレーションとしてのスポーツ行事パラグライディング大会」は、大村市の琴平スカイパークエリアにてパラグライダーアキュラシー競技を実施しました。

朝から小雨がばらつき裏風でやばく怪しい雰囲気でしたが、開会式が始まる頃からなんと西風正面の風が入り出して(琴平マジック)来て、曇り空ながらアキュラシーには持ってこいの条件になりました。

10時35分から3ラウンドがスムーズに行われ、後半は本流の裏風フォローのなか少し苦戦しましたが、風が止まったときを逃さず、参加選手45名延べ132本のフライトができました。

参加選手の皆さん、地元はもとより九州各県や関東、関西方面からも駆けつけて大会を盛り上げていただきありがとうございました。

夜の部は地元公民館をお借りして親睦会も超一盛り上がり、バラ談義でフライヤーの横の繋がりができ、よい親睦の場となりました。



ターゲット中央のパッドを狙って激戦が繰り広げられた。



上位入賞選手。国体マスコットも駆けつけてくれた。



選手・スタッフ全員で。大会の成功に笑顔が。

成績は以下のとおりです。

- 1位 首藤忠昭(大分県)
- 2位 嶋田克海(長崎県)
- 3位 吉満幸二(鹿児島県)
- 4位 古田岳史(埼玉県)
- 5位 金崎 明(長崎県)
- 6位 古賀公至郎(長崎県)

報告:長崎県ハング・パラグライディング連盟 小川勝良

## ■安全フライトセミナー

### 東京都ハング・パラグライディング連盟

東京都連では昨年7月から東京都および近郊のフライヤーを対象に安全フライトセミナーを開催しています。

安全にフライトするための考え方を共有しながら、参加者自らが自身の問題を解決できるようになることを目的とし、フライト技術に関してもスクールでの講習や講義内容と矛盾の起きにくい内容を取り扱うように工夫しています。質疑応答の時間を多めに設けて、参加者からの疑問等にもお答えしています。

最初の1年はハングライダーの話題を中心に開催してきました。常連参加者も増えてきています。今後はパラグライダーも対象に開催してゆきます。ハングとパラのどちらか一方だけを飛んでいる方が多いと思いますが、双方が同じ空域を飛ぶことも多く、他方の知識を身に付けておくことも安全なフライトにつながります。

初中級者の方だけでなく、ベテランの方々もぜひ参加してみてください。平日の夜、概ね毎月1回の開催で、開催日時・会場・テーマなどは都連のwebページで随時ご案内しています。

Facebookのイベントでもご案内を始めました。ご希望により、メールでものご案内も可能です。参加にあたって事前の申し込みは不要で、直接会場にお越しいただければ参加できます。

次回10月は、以下の内容で開催の予定です。

テーマ: 世界のパラ事情と安全なフライト(仮題)

講師: 呉本圭樹氏

開催日時: 2014年10月29日(水) 19:30-21:20

開催場所: 港区生涯学習センターばるーん 304学習室(JR新橋駅烏森口徒

歩3分)

参加費: 都連会員-無料、会員外-700円、会員外学生-300円

11月以降のセミナーは下記の内容を予定しています。

- 2014年11月 ハングライダー上達スパイス 講師:鈴木由路(都連理事)
- 2014年12月 フライト気象学入門 講師:野尻知里(気象予報士)

これまでに開催したセミナーのテーマは以下の通りです。

- 【初級者向け】安全なソアリング
- 大会のススめと危機管理
- 【初中級者向け】安全なテイクオフ・ランディング
- 【中級者向け】フライト技術の自己分析
- サーマルの乗り継ぎ、安全なアウトランディング
- フライト気象学
- 【初級者向け】安全なソアリング[2]
- 【初中級者向け】安全なテイクオフ・ランディング[2]
- 【初中級者向け】春の飛び方
- ハングライダーの魅力と安全なフライト
- 【初心者向け】上達スパイス・安全に続けていこう
- 【初中級者向け】安全なソアリング
- 女性フライヤーとしての飛び方
- パラグライダー【初心者向け】ケガなく安全に飛ぶために

お問合せ先: 都連webページ:  
<http://www.sentench.com/~tokyohpf/>  
都連事務局電話/FAX: 03-3728-7765 (鈴木康之方)



鈴木由路さんが講師の回。皆さん、気軽にご参加を。



気象予報士で世界選手権5位の野尻知里さんも講師に。

# 海外でフライトをされる場合の注意事項

JHF安全性委員 伊尾木 浩二

いつかは海外で飛んでみたいと思われる方、既に海外フライト経験が豊富でこれからも飛びに行こうとされている方、そういった方へのアドバイスをお伝えしたいと思います。少しずつですが海外でのフライトにおいて状況変化が起きています。その要因は、事故によるトラブルであるとの報告を聞いています。これから海外でフライトされる場合には、十分に予備知識を持ったうえで、マナー、モラルを配慮し、安全に楽しく飛んでいただきたいと思っています。

## 自分の技量を超えない。

今年も残念ながら日本人による海外フライトでの事故報告が複数件あり、死亡事故も発生しています。何故、海外で事故？ 日本とはまったく違う環境ゆえ、より慎重になるはずでは？

現実には、「遠方からここまで来たから無理に飛ぼうとする」または「地元のベテランパイロットを追いかけて飛んでいく」などの結果、経験したことのない状況が起こり、誤った判断、誤った操作が原因で墜落事故などが起きている状況であります。

スカイスポーツは趣味の世界です。決して無理をして大きなリスクを背負ってフライトすることが望ましいわけでもなく、楽しいこともありません。一度の問題が、取り返しのつかない事態になることも起こりえます。常に自分の技量を超え

ないフライトを心がける必要があります。

海外でフライトするならヨーロッパと誰もが思うでしょう。特にスイス、フランス、オーストリアなど。ヨーロッパアルプス周辺国でのフライヤー人口は約十万人。日本はアジア圏で一番パラグライダー人口も多いと思われ、登録者数で約一万人です。また、メーカーによる機体情報は迅速に入ってくるものの、エリア情報などは現地へ行かなければわからないのが現状です。

ここ数年、欧州各国のエリアルールの変化が起き始めています。その原因は事故が発端ですが、たとえばドイツでは、無保険で他国籍のパイロットがロープウェイのワイヤーに接触し宙吊りとなり、ロープウェイ搭乗者、山頂の方を下山させるのに翌日までかかり、多額の損害賠償問題となりました。しかし、パイロットには保険が一切かけられておらず、すべてロープウェイ会社の責任となってしまったのです。また、オーストリアでは、アクロが盛んなエリアがあり、そこで問題を起こすのは外国人だと地元は言います。そういえば、スイスでも問題を起こすのは●●人だと、お国の名前を挙げてきます。日本人は、何故Cクラス以上の機体に乗りたい人が多いのか、年齢の高い人が何故Dクラスに？と首を傾げて言ってくる人もいました。

ヨーロッパでは全般に山は大きい。ソ

アリング確率も高く、ソアリングできなくてもフライト時間はそれなりに長く飛ぶこともできる。サーマルが出れば当然、荒れる。

イタリアの有名なエリアでは、早朝のフライトは外国人を含めていっぱい飛んでいましたが、日中は私を含めて4、5人しか飛んでおらず、ランディングすると多くのパイロットが戯れていました。彼らは夕方になると一斉に飛び始めるのです。習慣的に日中の荒れるコンディションでは飛ばない人が多いということであり、リスクを配慮した判断でもあり、飛んでも楽しくないからと思っている方も多いのでしょうか。

また機材のクラスについては、DHVから今年聞いた話だと、メーカーが販売する機体のA、Bクラスは全体出荷の約8割とのこと。いわゆるC、Dクラスは2割程度しか出荷されていないことになります。A、Bクラスで十分満足のいくフライトができるから販売数も多いのだと考えられます。

欧州では安全志向のフライヤーが多いことは、私も飛んでいて感じる時があります。この風なら飛べるだろうと思っても、現地の人たちは、より慎重に判断していると見受けられます。

## リスクを減らす努力を。

せっかく楽しい思い出を作るための海外フライト、念願の海外フライト、という方もいるでしょう。だからこそ万全の態勢をつくるに越したことはないのです。海外でも日本でも事故は発生しています。その多くは潰れが原因での墜落です。欧州では崖も多く、テイクオフが日本とまったく異なる環境も多くあります。そこで、いかに日本で学ぶか、練習するかが重要です。潰れた場合、どう対処すれば良いのか？ フライトプランはリスクが高くないかどうか？ 万が一の潰れが原因で崖と接触、またはツリーランになってしまうリスクを常に配慮する必要があります。常に余裕をもったフライトが安全、安心感、楽しさを増やしてくれるでしょう。当然、夜のお酒もおいしくいただくことができるわけです。

以下に大きなポイントを挙げます。しっかりと普段から心がけておけば、日本、海外問わず安全に飛ぶことができ



ヨーロッパアルプス周辺などのエリアは日本とはスケールが違う。気象条件など情報を集めて準備したい。

て、リスクを減らすことができると思います。

### 【ポイントチェック】

Q1: 使用している機材は自分の技量に本当に合っているか?

A) よくわからない場合には、すぐにイントラに相談しアドバイスを受けるべき。パイロット証を持っていても、スクーリングを受けたほうが間違いなく上達し、正しい判断、自信が生まれます。

Q2: 万が一、翼の片側50%が潰されたらどう対処すれば良いか? 正しい対処、手順を理解しているのか?

A) だいたいわかっているという方は危険です。確実に対応ができるようにイントラに即相談です。地上トレーニングでも潰れの練習はできます。

Q3: フライトプランは常にリスクを配慮して行っているかどうか?

A) 皆と一緒に飛んでいるから安全と思っている方、自分で自信をもってフライトコースなどをイメージできない場合には、イントラに即相談。風向き、風の強さを配慮し、リッジの攻め方、サーマルの捉え方などはすべてフライトプランで決まります。毎回のフライトが良いかどうか、ご自身でも反省、見直すことが重要です。ログブック記入は上達への早道です。

Q4: ライズアップ、テイクオフは、パイロット証を持っていても危ない方を見ることがあります。初心者に見本となる安全なテイクオフが自分ではできているのかどうか?

A) パイロット証保有者、スクール生、卒業生は、常に初心者から見れば先輩です。地上トレーニングはフライトを続ける



アルプスの少女が登場しそうな美しい風景。多くのパイロットが、風が穏やかなる夕方を待っている。

うえで必須です。1日飛びに行けばランディング後に2~3回はライズアップ練習をするとか、10分程度のグラハンを加えたりとか、地上練習を行わない方は、フライトする上でリスクが常に高いと理解する必要があります。わずかな練習でも身に付きます。飛ぶだけではなく地上練習を行う必要はあります。

このようなポイントを十分に理解し、分からなければ教員、助教員に聞いて学ぶ。練習をする。パイロット証を取得して20年以上経っていても、練習は絶対に必要です。日頃の練習が事故を防ぐ役割もあります。イントラのフライトを見て上手だと思った方、それはイントラも常に練習しているからです。少しの時間でも練習を重ねれば間違いなく上達していきます。

### 情報を共有し安全に。

最後に。海外でフライトする際は事前に必ずIPPIカードを申請(JHF事務局

に申し込み)し、海外旅行保険に必ず加入してから行くことです。海外旅行保険も損害賠償は2億円が理想です。通常は1億円ですが、1億円保障では場合によっては、飛ぶことができないエリアも出てきます。IPPIカードは国外技能証ですので、必ず携帯が必要です。

海外では、日本人がフライトする場合には日本という看板を背負って飛ぶことになります。あの人は日本のどこそこのエリアの方だと思える人は誰もいません。グループで飛ばれる場合には、自分だけという行動ではなく、一つのチームとして空域の情報、ランディングの情報などを伝え合い、少しでもリスクを減らし、楽しく飛べるようにしていただきたいと思います。

誰も相談する相手がない場合にはJHFまでお気軽にご相談ください。スクールの紹介もできます。これからも皆様が楽しく飛び続けられることを願っています。

## 2014-2017年度JHF教員検定員合格者発表

2014年3月24日~26日に開催した教員検定員検定に合わせて、模範演技を録画提出していただき実技検定を行い、厳正な合否判定の結果、次の27名の方が今年度からの教員検定員として合格されました。

この27名の皆様には、今後3年間に渡り、教員検定会の開催、教員・助教員更新講習会の講師、事故調査専門委員として事故報告はもちろん、事故調査を依頼します。

検定員の皆様、全国のフライヤーの手本として、またレベルアップのための活動をよろしくお願ひします。

### 【教員検定員】

北海道	田代 茂樹 (PG)
青森県	古川 正司 (HG)
宮城県	山谷 武繁 (PG)
山形県	金井 誠 (PG)
埼玉県	下山 進 (PG)
東京都	郷田 徹 (HG)
神奈川県	中村ヤスオ (PG)
	島野 広幸 (PG)
	町田 重幸 (HG)
群馬県	伊尾木浩二 (PG)
山梨県	岩橋 亘 (PG)
	水野 良信 (PG)
茨城県	板垣 直樹 (HG・PG)

茨城県	殿塚 裕紀 (PG)
	福田 武史 (PG)
静岡県	目黒 敏 (PG)
和歌山県	外村 仁克 (HG)
奈良県	丸谷 政則 (PG)
京都府	坂本三津也 (HG)
大阪府	片岡 義夫 (PG)
徳島県	椋本 清治 (PG)
福岡県	小林 秀彰 (PG)
	角町 正彦 (PG)
長崎県	小川 勝良 (PG)
熊本県	西本 一弘 (HG)
沖縄県	井藤 志暢 (PG)
	大城 芳郎 (PG)

# 激戦8ラウンド、吉富周助・伊藤まり子が勝利!

7月26日・27日 石川県獅子吼高原スカイレジャーエリア 報告:実行委員長 山口 隆文(獅子吼高原パラグライダーズスクール)

過去3回、獅子吼高原で開催されたJHF公認アキュラシー大会において、いまだフライトできなかったことはないほど、この時期の獅子吼は非常に確率が高い。しかしながら、フライト条件も非常に良いため、豊富なサーマルによる風の強弱などにより、選手の技術が大きく試された大会でもあった。

今年は梅雨明けが遅く、大会前日の予報ではかなり厳しい気象条件だと思われるので、選手の期待に応えられるように、限られた時間と天候を最大限に生かし大会を行うこととした。

今大会は、鶴来の夏祭りとは併した開催であり、大会期間中はエリア周辺でも催し物が行われていた。エリアでも大会以外にパラグライダー無料タンデム会(抽選)も開かれ、一般の方々にも大会を観戦すると同時にタンデムで空も楽しんでいただいた。

## 7月26日:4時間半で6ラウンド

朝から素晴らしい青空が広がりましたが、予報では、南西の風が昼にかけて強くなりフライトは厳しいものとなりそうな感じであったため、当初予定していた開会式を夜のパーティー時間にずらし、競技優先で山頂へ移動することとなりました。通常は9時半から運行されるテイクオフ行きのゴンドラもこの大会のため

めに8時15分に運転を開始していただくことになりました。

7時半より選手受付開始、7時45分より本部前にてブリーフィング開始、8時15分ゴンドラ乗車。

テイクオフに到着すると風は南西向きでやや強く、競技スタートには微妙な状況。風を待ち9時過ぎに、風はやや弱まり、ダミーとタンデム機がテイクオフ。フライトには問題なさそうなので、ラウンドを開始する決定が行われました。

しかし、最初の選手がテイクオフしたと同時に風が再び強くなり、テイクオフはストップ。セーフティーコミティーとオーガナイズ側との話し合いで、1人でラウンド中断との判断となりました。風が弱くなると予報される14時にテイクオフ再集合することに。選手は各自の判断で、フライトして降りる者、テイクオフで待機する者、なかには海の幸を楽しみ観光へ出かけた選手といろいろ。それぞれ待機時間を有意義にすごしました。

14時、再びテイクオフにてブリーフィング開始。競技開始が見込める条件であったため、ラウンド終了を日没までと決め、即座に競技再開となりました。

スタート順位2番目の選手よりラウンド再開。その後は安定した西～北西の風が吹き続き、選手たちは順調にターゲット目指してテイクオフしていきました。

選手が予想もしていなかったのは獅子吼の条件の良さ。西斜面であるため、上昇がよくあり、高度を下げるのに非常に体力を消耗。また、ランディング後からテイクオフまで10分もかからないアクセスのよさということもあり、ラウンドの回転が早い。そのうえ、気温は37度を記録し、湿度も高めとあって、ラウンドごとに体力を消耗していきました。

そして、ラウンドを重ねるごとに、高い技術と体力、集中力を保てる選手が上位に残り、集中力を欠いてしまった選手がミスをし始める、まさに死闘となりました。

日没19時を限度にひたすらラウンドが行われ、14時15分に開始したにも関わらず18時50分までに6ラウンドが成立しました。選手の皆さんはかなりきつかったようですが、最高の競技ができたのではないのでしょうか。

競技とあわせて企画した無料パラグライダー体験会では、抽選で当選された方10名に獅子吼の空を楽しんでいただきました。

競技終了後、慌しくパーティー会場(獅子吼高原パラグライダーズスクールに通われている講習生の方が経営されているお店「焼肉すぎの」)へ移動。ビールに飛びつきたい気持ちを抑え、まずは開会式です。



初日14時すぎ、2番目の選手が飛び立ち、競技再開。



日没までに6ラウンドが成立。最後は集中力の勝負に。



最終ラウンド、吉富選手が確実にバットを踏み、日本選手権を勝ち取る。

JHFより内田会長の代理として福永理事が来られ、開会の挨拶。続いて実行委員長の山口より挨拶。開会式を終了して、パーティー開始。6ラウンド終了時点で、トップを走る横井選手(昨年の日本選手権者)に乾杯の音頭をとっていただきました。飲み食べ放題で、皆さん、大盛り上がり。翌日に酒を残さぬように、楽しんでいただけました。

明日は午前中に気圧の谷の通過で雨が予報され、風もやや強めなので競技は厳しいかと思われませんが、希望をもって、雨上がり10時半受付開始としました。

### 7月27日:日本選手権者決定

早朝より予報どおりの強い雨。その雨も受付開始時間前の10時には上がり、ところどころ晴れ間も見え始めました。10時半に受付開始。天候は回復したものの風は強く、すぐに競技を開始できる状況ではないので、12時テイクオフ集合の判断となりました。

12時テイクオフ集合、ブリーフィング開始。「風が強い」という選手の意見が多く、さらにウエイティングに。獅子吼では、この風はP証クラスはフライトする風でしたが、この海拔高度のテイクオフで5m/sの安定的な風を経験する選手が少ないという理由でのウエイティングでした。

風の強さは12時半の段階でも変わらずでしたが、オーガナイズ判断とセーフティークミティーの判断により、ラウンドが行われることとなりました。風速計の数値

によってテイクオフディレクターが中斷・再開を判断し、再開されても自己判断で飛ばないのは勿論、選手の自由ということで、大会続行に至りました。

13時にラウンド7開始。順調に選手はテイクオフランディングを目指しました。しかし、風や雲の状況により時折りタイミングを計る時間が入り、少しラウンドには時間がかかりました。

そのため、8ラウンドをファイナルラウンドと決定。

スタート順位を入れ替え、暫定順位下位選手よりファイナルラウンドスタート。残り7選手となり、少しのミスで大きく順位が変わる状況でした。暫定3位の横井選手、ここへきて8点のバット。暫定2位の岡選手は最後に痛恨のミス、ハーネスタッチで1000点。暫定1位の吉富選手は上空で岡選手の転倒を確認し、確実にバットを踏み15点ランディング、今年度の日本選手権者となりました。岡選手の1000点により、最後に順位入れ替えが起き、8ラウンド目で21点を獲得した水野選手が逆転で3位、岡選手は4位となってしまいました。

前日同様、無料パラグライダー体験会では、抽選で当選された方10名に獅子吼の空を楽しんでいただきました。

終わってみれば、悪い予報であったにも関わらず、2日とも競技が行えました。大会開催には、非常に大きな労力が必要です。今大会では、獅子吼高原パラグライダースクールを中心とした、獅子吼高原のフライヤー延べ60名の方々

に役員をしていただきました。

また、地元、スカイ獅子吼(ゴンドラ会社)、白山市からも大きな協力とご支援をいただきまして深く感謝します。

#### [スクラッチクラス総合]

- 1位 吉富 周助
- 2位 横井 清順
- 3位 水野 良信
- 4位 岡 芳樹
- 5位 伊藤 まり子
- 6位 古賀 光晴

#### [スクラッチクラス女子]

- 1位 伊藤 まり子
- 2位 小川由希子
- 3位 菊田 久美

#### [ハンディキャップクラス]

- 1位 吉富 周助
- 2位 横井 清順
- 3位 水野 良信

#### [ルーキークラス]

- 1位 小川由希子
- 2位 岩崎 弥彦

#### [チーム戦]

- 1位 Team 東海
- 2位 大台
- 3位 ハチ北

### 日本選手権者から

#### □吉富 周助

昨年度はリーグ優勝をとることが出来たので、今年こそ日本選手権覇者になるぞという強い意思で挑みました。ここぞという場面で大外しをしてしまうというメンタルの弱さがありましたが、それを克服すべく日々の練習を重ねてきました。試合当日、力みもあったのだと思いますが、初回大きく外してしまい1000点、また弱さが出たと嘆きました。そのあとは無心に一本一本に集中出来ました。

#### □伊藤まり子

相性の良い獅子吼エリアの風に助けられ、運にも恵まれたおかげで獲得できた今回の日本選手権者認定証ですが、時が経つごとにその重みを感じるようになりました。私の技術はまだまだ発展途上中です。今大会には参加していない、実力No.1女王の背中を追いかけて、いつかは追い越せるように、これからもがんばります。



スクラッチクラス総合1～6位



スクラッチクラス女子1～3位



ルーキークラス1位・2位



チーム戦1～3位

# 写真で日本の空を元気に!

第3回 JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 入選作品発表

JHFは、ハンググライダーやパラグライダーが写真を通じてできるだけ多くの人々の目に触れることが普及のために必要であると考え、フォトコンテストを開催しています。

第3回はフライヤー以外の方も含め全国からハンググライダー・パラグライダーの楽しさ、美しさを表現した作品が寄せられ、第1回、第2回も入選の加藤文博さんがみごと最優秀賞を獲得しま

した。審査にあたった嘉納愛夏さんと山本直洋さんのコメントとともに入選作品をご覧ください。  
(空撮部門の入選、地上撮影部門ハンググライダー賞は該当作品なし)

**最優秀賞 加藤文博「眩い空」** 撮影場所:兵庫県丹波市



受賞者から●小さな虫たちが空を見上げたらどんなだろうか……ランディング場に生えた草花を通して虫たちの気持ちになって撮った一枚です。どこのエリアにもある小さな世界ですが、見上げた空は果てしなく、大きな世界が広がっていました。審査委員の方々、「眩い空」を最優秀賞に導いていただき本当にありがとうございます。

嘉納評●これまででありそうでなかったアングルからの撮影です。天気の良い日、昼寝をしようと野っばらに寝転がった「私」と、ふと視界を横切るパラグライダー。そんなストーリーが思い浮かぶような、物語性も素敵な一枚です。ピントを手前の草花に合わせたのも写真を印象的にしています。生き生きとした生命を感じさせる作品です。

山本評●第1回から上位入選されている加藤さんの作品です。他にもいくつか応募いただきましたが、どれも安心して見られるクオリティの高さはさすがです。この作品はカメラを地面に置いて撮影したのでしょうか? 普通に寝転んだだけでは撮れないようなアングルに新鮮さを感じました。とても爽やかな気分させてくれる一枚です。

## 審査員総評

嘉納愛夏



早いものでJHFフォトコンテストも3回となりました。応募数が減少しているのは寂しい限り。みなさん写真を撮っているはずなのに、応募しないなんてもったいない!

被写体が持つ力、構成のバランス、画面の美しさ、の内一つでも秀でていて、加えて意外性、驚き、偶然性、があればかなりの確率で入賞します。ただ撮っただけ、下の風景を撮っただけ、みたいな作品が多く、工夫が少ないのはとても残念です。そういう意味では最優秀賞の「眩い空」は、地面から撮っただけではありますが、発想の転換で「工夫」のコスパが高かった。

全般に言えるのはタイトルの付け方が素直すぎる。パラ賞「透き通る翼」は審査員全員から「青虫」だろ、とツツコミが入りました。タイトルにもユーモアが欲しいです。

(フォトグラファー)

山本直洋



今回は受賞経験がある方の新しい作品が多く集まりました。全体の応募数は前回よりも少なくなりましたが、その分以前とは違う新しいアングルから撮ろうと挑戦している作品が増えたように感じます。同時に、GoProなど動画カメラで撮影された映像から書き出された作品も増えました。映像の中からベストな瞬間、アングルを選んで写真にできるこの手法は、カメラが小型化し、性能が上がったことで可能となり、新しい表現方法としては大きな可能性を秘めていると思います。ただ、通常のハイビジョン映像では、書き出して写真作品としてプリントするにはまだクオリティが十分ではありません。

動画カメラでしっかりとした写真作品を作るには、4Kで撮る、最初から写真撮影モードで撮る等、最終的に写真にする事を前提とした設定と撮影方法が必要となるでしょう。

(Aerial Photographer)

内田孝也



回を重ねて、プロの写真家と評価選定を繰り返し、感じることはありません。それは、目の前の一コマを残したいと切り取った画面と、作品として構想し、ねらった絵の違いです。私の父も新聞の写真屋で、フィルムに写しこむ芸術性を教えられました。

デジタルの時代で、いろいろな事ができると思いますが、プロの目から見た時、やはり画質・発色・コントラストなどの基本要素は採点に影響します。良い写真が撮れた!と、意外性や決定的瞬間を自慢にした作品もあったと思いますが、審査員の目の前に置かれた大判写真の総合力で賞が決まりました。

賞を逃した中にも唸るような作品があり、応募作はメディアからJHFに引き合いがあるたびに紹介されています。

(JHF会長)

## 空撮部門優秀賞

鳥羽岳太「蔵王の頂へ」 撮影場所:山形県上市市蔵王連峰



受賞者から●今年4月、山形県南陽市の十分一エリアから飛んで、標高約1700mの蔵王の噴火口「お釜」まで行って帰って来た時の写真です。夏には多くの人で賑わいますが、道路開通前の4月、無人のお釜はまだ雪と氷に覆われ、雄大なスケールと静けさに圧倒される思いでした。空、雲、雪、岩の全てが美しい瞬間にこの場所に來られた事もとても幸運でした。  
嘉納評●一瞬何かわからない画面が目をつきました。また、応募の少ないハングライダーであり、それだけでも「おっ」と思わせました。冠雪してなくても死ぬほど寒い蔵王のお釜、その上空を飛んでいるというだけで、厳しい寒さと極寒の風を想像して震えます。撮影ポイント、天候、タイミングが合った、なかなか撮れない写真だと思いました。  
山本評●気合いの入った一枚です。冬の蔵王は想像以上に寒く過酷な環境で、ハングライダーの技術も高くないと行く事さえできない場所です。動画カメラでの撮影と思われるのですが、プリントを含めそれをあまり感じさせない仕上がりになっています。もしこれが一眼レフでもっとワイドに撮影されていたら、さらに上位を狙えた作品だと思えます。

## 地上撮影部門パラグライダー賞

竹田和美「光と戯れる」 撮影場所:北海道虻田郡留寿都村



受賞者から●ここは見晴らしが良く、雨上がりで光が輝いていたので風景を撮影していると、パラグライダーをする人が来たので、許可を得て撮影。初めて目の前で大空に飛び出す姿を見てドキドキしながらシャッターを切りました。雲の隙間から地上に差し込む光と、大空に舞うパラグライダーが優雅で美しく、私も一緒に飛んでいるようで時を忘れ楽しかったです。  
嘉納評●一目見て気に入りました。撮ろうと思って撮れる写真ではないことと、精緻な油彩画のような色彩に高い芸術性を感じました。光の入り方がレンブラントのようです。中世の森のような雰囲気があり、ヨーロッパ風の城を描き足したくなります。パラグライダーの色が赤だったこともよかったです。これが緑や青だったら今ひとつでした。  
山本評●幻想的な雰囲気一枚です。厚い雲の間から光が差し込み、普通の風景写真としても成り立つ光景の中にパラグライダーが飛んでいます。パラグライダーの写真でこのような芸術性を出すのはなかなか難しいのですが、それがうまくできている作品だと思えます。

## 地上撮影部門入選

加藤文博「また翔ぶで!」 撮影場所:兵庫県丹波市青垣町



吉田真弓「夏雲」 撮影場所:沖縄県石垣島明石ビーチ



牧原昭文「砂丘に咲く」 撮影場所:鳥取県鳥取砂丘



三澤洋子「珊瑚礁の上で…」 撮影場所:沖縄県南城市知念岬



受賞者から●沖縄の青い海とサンゴ礁の美しさに見とれつつ、その上を飛んでいられることに幸せを感じながら何気なく撮った一枚です。ふと見ると、渚を飛んでいる他機とその影の横に、一緒にシンクロしながら動くもう一つの影を発見! これって、私の機体?……この美しい海の上を飛んでいる自分の(影だけど)写真が撮れると、喜んでシャッターを切りました。  
嘉納評●飛んだ場所の勝利です。これかただの海の上だったら入っていないのですが、珊瑚礁の美しいグラデーションが勝ちました。また、珊瑚礁の上に撮影者と被写体の影が落ちており、ほぼ真昼に飛んでいるのだとわかります。撮影者の存在が何気にも感じられるのがいいですね。ただ一つだけ惜しかったのは、写真の画素数がとても低いこと。  
山本評●とにかく撮影地が良いですね。撮影者自身の影が写りこんでいることで、ちょっとしたアクセントになっています。色鮮やかな海のおかげでばつと見は良いのですが、よく見ると画質のクオリティが低いのが残念です。自分もこんな場所を飛んでみたいと思わせてくれる一枚です。

北川隆司「透き通る翼」 撮影場所:岡山県玉野市王子が岳フライトエリア



受賞者から●私のお気に入りの撮影スポットは、瀬戸内海を一面に見下ろすことができる玉野市の王子が岳。特に、西日が強く輝き始め、そして夕暮れへと変わっていく瞬間が感動ものです。撮影したこの日も、太陽を背にしたパラグライダーが、まるで透き通る翼を広げた鳥のように飛び立っていき素敵でした。何時かは私も鳥のように大空を飛んでみたいものです。  
嘉納評●見事な左右対象に思わず笑ってしまいました。逆光のため、人物と手前は暗く落ち、反面、風をはらんだパラが光をも内包して宙に浮かんでいる様子が美しいです。遠くに見える島々も「旅情」を感じていいですね。タイトルが平凡で、その分損をしているような気がしますが、ザッと並べた時に目立つ作品であることは間違いありません。  
山本評●立ち上げの瞬間のパラグライダーキャンビがまるで生き物のように写されています。ざっきまで小さく折り畳まれていたキャンビは、インテークから空気を取り込むことによって命を吹き込まれ、翼となりパイロットを大空へと飛び立たせてくれます。光り輝くパイロットが生きる翼を操る術者のようにも見えておもしろい作品です。

今年の学生連盟の夏は例年にも増して盛り上がりました。尾神、砂丘、nasaS、そして朝霧と、4つのイベントが無事に開催されました。以下は実行委員長たちの報告です。

## 尾神岳Paraglider Student Cup 2014 8月19日～8月21日

今大会は天気恵まれ3日間通して全クラスが大会成立しました。1日目、2ndクラスのデュレーションでは田畑選手と糟谷選手がリッジリフトをうまく利用して2時間以上のフライトで活躍。1stクラスのパイロンレースでは佐藤選手がゴール。2日目は1stでは齋藤選手がゴールしました。14時半くらいから積雲が発達してきたのでこの日の競技は終了。2ndクラスの選手はランディングへの同時進入でしたが冷静に対応していました。3日目は2ndクラスでは藤岡選手と田畑選手がやや渋いコンディションのなか粘り1時間半以上のフライトで両者活躍。1stクラスでは佐藤選手が渋い中ゴールしました。

大会全体では、Openクラスでは1位の竹内選手と2位の今春選手の差が29点と僅差でした。2ndクラスでは田畑選手が3日間安定した成績で優勝。1stクラスでは齋藤選手と佐藤選手が僅差の中デイクオリティの差で齋藤選手が優勝。3日間を通して選手の皆さんが尾神の空を満喫し満足して大会を終えることができ良かったと思います。

この大会に際して、多大なご尽力をいただきました上越市吉川区の大会スタッフの皆様に感謝を申し上げます。

山形大学3年 若杉 厚志



## 鳥取砂丘合宿

8月26日～8月29日

鳥取砂丘合宿は今年で22回目を数え、山飛び前や山飛び直後の新入生を主な対象として、日本学生フライヤー連盟関西支部が毎年夏に開催しています。着地が安全で、安定した海風が見込める鳥取砂丘でインストラクターの指導のもと4日間グランドハンドリングやテイクオフ・ランディングを繰り返すことで、初心者技術向上を目指しています。今年も青森から山口まで約120人の学生が参加しました。

8月の鳥取は雨が降り続きましたが幸い好天で合宿初日を迎え、開会式を終えるとハング、パラに分かれて、グラハンを中心とした基礎練習を開始。午後は強風になり講習生はグライダーの取り扱いに苦労していましたが、インストラクターや上級生の指導を受けるうちに段々と慣れてきているようでした。夕方にはさらに強風となり、パラは撤退し砂丘松林にて安全講習を行いました。初心者にはグライダーの正しい立ち上げ方などの基礎的な講習を、上級生には翼端折りに関する事など技術的な講習を、それぞれインストラクターからいただきました。

2日日も好天で朝から講習に理想的な海風が吹きました。ハングは斜度の違いを利用しレベル別にグラハンや滑空練習を、パラは風の比較的弱い場所で立ち上げ練習。それぞれ夕方までしっかりと練習することができました。

3日目の午前中は2日目の練習の続きを行いました。この頃には講習生の技術が目に見えて上達してきており、特にハングはテイクオフ・ランディングの技術に、パラは立ち上げ方法に練習の成果が見られました。午後はミニ大会を開催。ハングはグラハンレースとターゲットを、パラはグラハン耐久レースとターゲットをそれぞれレベル別で行い、大いに盛り上がりました。参加者の多くは新入生

なので、このミニ大会は将来の大会出場に向けて良い経験と刺激になったのではないかと思います。夕方にハングの安全講習会を行い、安全にテイクオフとランディングをする重要性とその方法を改めて教えていただきました。講習生はもちろん上級生にとっても、自分の基礎を見直すいい機会になりました。夜はハング、パラ一緒にレセプションを行い、普段は会うことのできない全国の学生フライヤーとの交流を楽しみました。

最終日の午前中はハング、パラともに滑空の練習。これまでの練習の総仕上げをして砂丘練習を終了。午後は砂丘事務所の方のご指導のもと、全員で砂丘の除草作業をした後、ミニ大会の表彰式を行い閉会となりました。

大きな事故や怪我もなく、また4日間とも天気に恵まれたことで、予定通り十分に練習を行うことができました。合宿を通してレベルアップして、全国の各エリアに戻り、初山飛びを達成することができたという話をあちらこちらから聞き、とても嬉しく思うとともにこの合宿の意義を感じています。また、この合宿は学連のイベントの中で最も大規模であることから、学生フライヤー同士の交流を深めるという意味でも重要なものだと考えています。このような合宿を毎年続けて



いくことは意味深いことだと改めて感じました。

最後に、合宿の運営に際してご協賛いただいた企業の皆様、ご協力いただいたインストラクターや合宿関係者の方々に深くお礼申し上げます。

大阪大学3年 吉井 丈晴

### nasa STUDENT CUP 2014 in 板敷 9月2日～9月5日

本格的な雨に降られることは無かったものの、4日間とも雲の多い天気です晴れ間があまりなく、風も時折強めの風が入ることもあったが全体としては終始穏やかで、競技を行うには渋いコンディションであった。今回はここ数年では最も多い31名もの選手が全国から参加していただけたに、競技内容としては面白みに欠けるものになってしまったのが残念だった。しかしながら4日間毎日フライトすることができ、特に1st、2ndの選手たちにとっては自分の技術を磨く良い機会になった。中には10本以上飛んだ選手もいた。

板敷山エリアで開催して、板敷山エ



リアの学生と交流を持てたことは、良いことだったと思う。普段から隣同士のエリアで活動しているにもかかわらず、毎年nasaS以外はあまり学生同士の交流がなかったので、競技やレセプションを通して様々なエリアの学生が交流を深められたのは、今後にとってもプラスだろう。足尾の大会スタッフの1人と板敷の選手の1人が同郷で中学も同じだったということが大会中に判り、テイクオフにて昔話に花が咲いたということがあったが、それも他エリア同士の交流ということの一つの良い例だろう。さすがに驚いたが。

大会期間中、軽傷(切り傷)を負った選手が1名いたものの、幸いなことに、

大きな事故などは発生せず、概ね順調に大会を終えることができた。今大会が無事に終わることができたのは関係各位のお力添えの賜物であります。ウインドスポーツの鈴木由路さんをはじめ、nasaの板垣直樹さん等インストラクターの方、また、板敷の学生フライヤーサークル「Flying Chicken」の田尻弘和さんをはじめとする板敷の学生フライヤーの方、そして、スタッフとして大会運営に尽力してくれた、当日ボスの佐藤研斗を始めとする足尾の学生のみみなには、言葉では言い表せないくらいお世話になりました。改めて関係各位に深くお礼を申し上げます。

中央大学3年 五百扇 峻

### 第1回全日本PG学生フライヤー合宿 in朝霧 9月8日～9月10日

当合宿はスカイ朝霧にて盛大に開催され、学生のパラグライディングのイベントとしては最多となる54名の学生が参加しました。3日も天候に恵まれ、合宿に参加した学生は各々課題を見つけ練習することができました。

本年度が第1回となる当合宿ですが、開催した理由は大きく二つあります。

まずは、本年6月に学生とOB・OGに実施したアンケート結果から、学生のうちにサークルの仲間と様々なエリアを訪れる経験は非常に重要だと考えたこと。学生が卒業後もスカイスポーツを続けていくにあたり現在不安に思っていることとしてアンケートで一番多かった回答が「学生時代に自身のホームエリア以外で飛んだことがなく、転勤等の理由から他エリアに移らざるを得なくなってしまった時に、他のエリアに馴染めるか不安」というものでした。近年、学連のパラのイベントは、尾神岳Paraglider Student Cup(新潟県の尾神エリア)と全日本PG学生選手権(茨城県の足尾エリア)の二つだけなので、ホームエリアとこの二つのエリア以外を飛んだことがある学生はあまりいません。また、他エリアで自由に飛ぶことができるP証やXCP証を取得している学生はそれほど多くなく、それらの技能証を持っていない人たちが他エリアで飛ぶためには教員の同伴が必須であることがほとんどです。そのため、学連主催の合宿という形にして教員3名にお越しいただき、その方たちがきちんと見てくださっている環境で、普段

は違うエリアで活動している学生同士交流ができればと思いました。また、朝霧エリアにした理由は、多くの学生が飛んでみたいエリアとしてとても人気があったからです。

二つ目の理由は、競技志向でない学生とも交流できるイベントを企画すること。学連主催のパラのイベントは両方とも大会なので競技志向の学生しか参加せず、競技志向でない学生との交流はほぼありませんでした。しかし、パラグライディングの楽しみ方は個人で色々あってよく、また、多くの部員がいるわけではないのが我々のサークルなので、他エリアの学生との交流はととても刺激的でかけがえのないものです。ですから、志向に関係なく多くのパラをやっている学生が参加できるイベントを企画したいと思いました。実行委員長として参加した私も普段の学生大会では会えなかった学生と会うことができてとても新鮮でした。

当合宿は初めての試みも多かったですが、多くの方々のご協力のおかげでとてもすばらしい最高の合宿になったと実行委員長である私は自負しております。この合宿に携わったすべての方々に感謝します。本当にありがとうございます。ぜひ、来年以降も後輩たちに続けていってほしいです。

立教大学4年 長井 陸



学連の先輩である社会人フライヤーの皆さまと、学生をいつも見てくださるスクールの皆さまのあたたかいご声援に励まされながらここまで無事に開催することができました。ありがとうございます。アツイ夏を終え、ほっと一息つきたいところですが、次のイベントに向けて学連はまた動き始めています。学生一同頑張りますので、これからもどうぞよろしく願います。

## JHFからのお知らせ

### ■PG教本基礎技術DVD頒布中

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。リアライザーコントロールでの引きしろとブレイクコードの場合との違いや、A・Bストールを行ったときの翼の変形の様子などもわかります。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントがつかみやすい内容になっています。

#### 価格・入手方法:

頒布価格はそれぞれ1枚1,500円(送料込)で、お申し込み30枚毎に1枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

### ■JHF備品を貸し出しています

JHFでは下記備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

#### ◇自動体外式除細動器(AED)

公認大会やイベント主催者に無料で貸し出し。申込条件:消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

#### ◇ポロジメーター

パラグライダーキャノピー等のエア漏れを計測する機械。スクール・クラブ等を対象に貸し出し。貸出期間は2週間以内。貸出料5,000円。

## あなたのデジタル無線機は登録済みですか?

デジタル無線機をご使用の皆様、無線機の登録手続きは、もうお済みですか?

JHFでは、ハンググライダーやパラグライダーの飛行中に使用する無線機として、デジタル無線機を推奨しています。

現在、国内で飛行中に使用できるデジタル無線機「携帯型デジタル簡易無線機登録局(上空利用)」は、スタンダード(STANDARD)のVX-291SとVXD450Sの2機種です。これらは簡単な登録手続きだけで利用できます。

既に購入、使用されている皆様も、必ず登録手続きを行い、利用料を払って運用してください。

登録申請をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰対象になります。うっかり登録忘れのないよう、ご確認をお願いします。

\*各地区通信局では警察と共同で「不法無線局」の取り締まりを行っています。不法無線局を開設したり運用したりすると、1年以下の懲役または100万円以下の罰金に処せられます。

#### ◇スカイレジャー航空無線機

スカイスports専用の周波数で使う無線機(465.1875MHz)。JHF会員を対象に、大会やイベントでのご利用のために貸し出し。貸出料は1,000円/台。申込条件:ご利用者の中に「第三級陸上特殊無線技士」免許を持ち、JHF無線従事者に登録している方が1名以上いること。

#### ◇アルコール検知器

大会やイベント主催者に無料で貸し出し。前夜の飲酒がフライトに影響することもあります。事故防止のために新たに導入しました。ご利用ください。国際航空連盟(FAI)もアンチドーピングの禁止物質にアルコールを指定しています。

### ■各種お申込みやお問合せは

#### JHF事務局へご連絡ください。

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015

東京都北区中里1-1-1-301

TEL. 03-5834-2889

FAX. 03-5834-2089

E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp

http://jhf.hangpara.or.jp/

\*賛助会員からのお知らせを同封しています。また、静岡県、神奈川県、岡山県在住の方にはそれぞれ静岡県、神奈川県、岡山県の各連盟からのお知らせも同封していますので、ご覧ください。

### 東日本大震災被災地復興応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

#### ◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行(銀行コード0005)

巣鴨支店(店番号770)

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

#### JHFレポート207号

発行日:2014年(平成26年)10月20日

発行:公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟(JHF)

編集:JHF事務局

印刷:株式会社美巧社